

平成30年度 誠英高等学校 学校評価書

平成31年4月12日

1. 学校教育目標	
校訓	至誠一貫 規律厳守 協同一致
教育方針	一人ひとりを大切に教育実践。 確かな学力と柔軟な精神力を身につけ、たくましく社会を生き抜く力を育む。

2. 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
学校経営	学校教育目標、学年・学級目標において目指すべき方向や課題を明確にし、理解と周知徹底を図ることにより、それぞれのセクションでの目標設定を図る必要がある。
教育活動	指導法の研究において、教材研究の徹底とわかる授業実施に向けての工夫・改善に努める必要がある。 学年・学級目標設定に伴い、それぞれの活動計画に基づいた教育活動が展開される必要がある。 生徒指導における教員間の温度差が指導の不徹底を生じさせている部分がある。 「清潔感あふれる学校」の充実に向け、清掃活動の徹底と習慣化を掲げた教職員・生徒一体化した取り組みに努める必要がある。
運営組織	校内研修の充実が図られ、研修実施の評価が向上した。研究授業や公開授業の実施充実が期待がよせられる。
教育環境	環境整備において、清掃活動の習慣づけを徹底する指導が必要である。学校HPの充実の評価が向上した。
開かれた学校づくり	育友会活動の充実において、総会、保護者会への出席率が伸びない反面、活動に協力的な保護者が増え、広報誌充実の評価が向上した。
生徒の教育効果	生徒の社会性、自主性の育成を目指した指導が急務である。

3. 本年度重点を置いて目指す成果・特色・取り組むべき課題（努力すべき目標）	
1 学習指導	基礎学力の不足を補う工夫と適切な授業展開と評価。 校内外研修の充実と授業公開及び他校との連携。
2 生徒指導	基本的な生活習慣の確立。 問題行動への適切な対応といじめへの教職員への共通理解。
3 進路指導	進路指導の早期取り組みと学年や希望に応じた適切な対応。
4 特別活動	部活動の活性化と地域でのボランティア活動・奉仕活動の推進。 生徒主体の活動推進と協力体制の構築。
5 業務改善	広報・生徒募集、育友会活動の充実。 校訓順守の精神と地域理解の促進。

4. 自己評価					5. 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見要望	評価
学習指導	基礎学力の不足を補う工夫と適切な授業展開と評価。	学び直しと学習能力に応じた適切な指導。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.1	○ほぼ実践できている。 ○学科、コースの違いによって能力差が大きく興味関心を持たせるまでの工夫が必要。 ○今後も対象生徒は増加すると思われる。	○評価全体は悪くない。 ○「授業理解度」→8割なら誠英に行こうかとなるのではないか。 ○授業が分かるかわからないかは評価の根源。 ○PDCAのCが大切である。 ○学び直しは是非必要。 ○学び続ける時代にICTの活用は不可欠。 ○私学は転動がない。その現場で自己を伸ばすことが指導に反映される。 ○高大連携の更なる充実が必要。 ○テキスト以外の体験学習が大事。 ○評価に対して学校、教員がどう対応、改善していくかが本当の評価となる。 ○マイナス面が出た時に具体的な改善案を掲げるべき。	B
		進度表に応じた計画的な授業進行と展開。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3	○ほぼ実践できている。 ○進度表を含めたシラバスの改訂が必要。 ○教科内で年間授業計画を共有することにより不測の事態にも対応できるのではないか。		
		適切な授業評価の実施と評価の効果的な活用。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.6	○あまり実践、活用できていないのが現状。 ○授業評価の形式を見直すことも必要か。		
		指導過程における適切なPDCAサイクルの確立。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.5	○PDCAサイクルの認識不足が顕著である。 ○教科内でのシステムに対する共通認識と理解が必要。		
	校内外研修の充実と授業公開及び他校との連携。	教科の枠を超えた研究授業とよ効果的な教授法・指導法の探究。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.2	○他教科の授業を参考にしスキルアップが是非必要であろう。 ○ICTの活用と施設・設備の整備も急務と感じる。		
		研究授業の実施、他校の公開授業や研修会への参加。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	1.5	○校務のためなかなか校外に出向けないのが現状。 ○近隣の学校での実践を参考にし、本校独自のスタイルを構築していく時期である。		
	中学校、専門学校、短大・大学、その他の教育機関との連携。	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	1.8	○近隣の学校でのを参観し、児童・生徒の実態を把握しておくことが大切。 ○上級学校とはさらに細かな連携も必要。	C		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見要望	評価
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校則の正しい理解と運用	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.3	○概ね実践できている。 ○情勢に応じた校則の見直しと、臨機応変な対応を考えることも必要。	○全体的に高評価である。 ○卒業式での気持ちや姿勢切り替えが良かった。 ○道徳教育を3年間のプランで計画的に実践する必要がある。 ○小中学校では教科道徳が動き出している。高校でも学年で段階的な指導が必要になってきているのではないかと。 ○先生が変われば生徒も変わってくる。	A
		さわやかな挨拶、言葉遣い、礼法、清掃活動の指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.2	○概ね実践できている。 ○教職員間での挨拶、言葉遣い、礼法等も常に振り返りを行うことで見本を示すべき。		
		風紀、安全指導を通じた規範意識とマナー向上の指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.1	○概ね実践できている。 ○交通安全を含め、校外での生徒の動向や言動への指導が必要。		
		服装、頭髪、身だしなみの指導の徹底	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.2	○概ね実践できている。 ○定期的な指導の定着により大きな乱れは見受けられない。 ○細かな部分、個に応じた対応が難しい。		
	問題行動への適切な対応といじめへの教職員の共通理解	特別指導への適切な対応と事後指導の徹底	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.9	○ほぼ実践できている。 ○突発的な出来事への対応、保護者との対応については共通理解の徹底が是非必要。		B
		いじめの防止、早期発見、迅速対応、適切な措置の徹底	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.9	○概ね実践できている。 ○個々の生徒への観察、周囲の動向への敏感な対応が未然防止の決め手となる。 ○現実ではいじめ発覚は氷山の一角か。		
思いやりの心と協調性、集団生活のマナーに関する指導		4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3.1	○概ね実践できている。 ○あらゆる場を使っての指導の強化が必要。 ○異性間や学年、立場の違いの上でのマナーや接し方を見直すべき。			
進路指導	進路指導の早期取り組みと学年や希望に応じた適切な対応	年次指導による段階的・系統的な指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3	○概ね実践できている。 ○段階に応じた興味関心をそそる内容の吟味。 ○就労意識や目的意識をどう持たせるか、様々な経験や体験を早くからさせることが必要。	○進学は20名程度の少人数での展開ができています。 ○保護者の評価が学年を増すごとに高まっているのは良いこと。 ○就職指導に関しては魅力がある。 ○大学受験に対しても、さらに力を入れてほしい。 ○公務員試験に特化した取り組みもあるのでは。 ○なるべく教員負担が増すことなく外部支援がなされるような仕組みが必要ではないかと。 ○学年に応じたキャリア教育の展開が必要であろう。	B
		企業や大学等との連携、保護者を交えた効果的な指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.3	○あまり実践できていない。 ○企業や学校等からの資料・情報の収集に敏感に対応すべき。 ○保護者への情報提供と会の見直しが必要。		
		キャリア教育に関する指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.5	○あまり実践できていない。 ○卒業生の体験談、様々なジャンルの経験者からの実践体験にもっと触れる機会が必要。		
		個別面談、面接指導、論文指導、事後指導等、細やかな指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.5	○ほぼ実践できている。 ○教員の経験、対応、指導補法の相違から系統的な統制の取れた指導体制を見直すべき。		
特別活動	部活動の活性化と地域でのボランティア活動・奉仕活動の推進	生徒への積極的な参加の呼びかけ	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.9	○ほぼ実践できている。 ○生徒会の呼びかけがさかんに、学校行事が年々盛り上がってきている。 ○教職員と生徒の交流の場があればよい。	○文科系の部活やボランティアのアピールが少ない。 ○校内での認識も低い。 ○校外の機関を活用してのアピールを。 ○卒業式での式歌の音が小さい。 ○ボランティアについて地域の人々からの評判がとても良い。 ○アピールの方法を工夫すればもっと認知度が高まるのではないかと。 ○福祉、食文化など専門学科等のアピールをもっとしてみようか。 ○裸坊、女みこし等地域文化を利用してアピールしてはどうか。 ○企画や運営は大変だがアピール効果は大きい。 ○県外の学校のノウハウを取り入れてアレンジを。	B
		指導計画や目標に基づいた指導と展開、向上を促す	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.5	○ほぼ実践できている。 ○計画的な実践が実を結んでいる部活もある。 ○生徒減や施設設備、指導者確保から部活動の見直しも必要と考えられる。		
		地域の諸行事や活動、ボランティア等への積極的な参加	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.5	○ほぼ実践できている。 ○郊外でのボランティア参加が周知されていない部分がある。 ○参加希望の生徒が固まっているように思える。		
		集団活動を通じて規律やマナーの習得を目指した指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	3	○ほぼ実践できている。 ○部活動の生徒であっても規範意識やマナーに欠けるものが増えてきた。 ○指導に限界を感じている教員もいるのでは。		
その他	生徒主体の活動推進と協力体制の構築	生徒会を中心とする諸活動の企画・運営の充実	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.4	○あまり実践できていない。 ○生徒会役員への立候補者がとも増えた。	○育友会活動へは高校ともなる参加する機会が少なくなる。 ○教員個々のICT機器活用の勉強が必要。 ○生徒、教員共にもっと外へ出てはどうか。 ○企画や運営は大変だがアピール効果は大きい。 ○県外の学校のノウハウを取り入れてアレンジを。	B
		クラスや学年・科の枠を超えた活動と協力を図る	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.3	○あまり実践できていない。 ○科、コースの特性を生かし、縦割りの連携強化も必要と思われる。		
		学校行事等の計画的な企画、運営、反省の実施	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.7	○ほぼ実践できている。 ○学校行事等の反省が次年度以降に活かされているのか不透明な部分がある。		
その他	広報・生徒募集、育友会活動の充実	広報活動、生徒募集活動の計画的な企画、運営、反省の実施	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.4	○あまり実践できていない。 ○生徒募集活動においては、教職員の共通理解や協力に欠ける面が見受けられる。	【その他の意見】 ○回収率が低い。 ○評価は年2回実施してはどうか。 ○公表を前提にすると教職員の意識が向上し、回収率も上がるはず。 ○物への投資より人への投資が大事。 ○反省、改善部分の認識と実践が大事。 ○物への投資より人への投資が大事。	B
		校内ICT設備の充実	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.3	○あまり実践できていない。 ○教員間での機器使用における差があり、実践の場を多くの教員が体験できる機会が欲しい。 ○小・中学ではプロジェクターの使用度が高い。		
		育友会活動の充実	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	1.9	○実践できていない。 ○小・中学校とのシステムや運営方法の相違からどうしても実践に結びつけない。 ○行事に参加したいと思う保護者は多いはず。		
	校訓順守の精神と地域理解の促進	教育活動全般を通じ、校訓の理念と精神の指導	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.7	○あまり実践できていない。 ○入学時のオリエンテーション等でもっと徹底すべきであろう。 ○教職員間でも勉強が必要である。		
		教育活動全般を通じ、保護者や地域との連携を図る取り組み	4. 十分実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. ほとんど実践できなかった。	2.7	○あまり実践できていない。 ○地域あつての私学であるという認識を一人ひとり強く持つことが先決である。		